【実践報告】

「社会福祉法人　慈光会　社会貢献活動への協力活動」報告

清水　克之　中藪　宏美　坂井　晶子　河内　祐美　太原　牧絵　内田　沙織

1．はじめに

２０１４年度に社会福祉法人慈光会から、地域貢献活動に協力して欲しいとの依頼が本学にあった。活動の企画・運営について慈光会側と数回の協議を行った。協議の中では、具体的な活動内容について明確に定めることは出来なかったが、当面は、試行的に単発のイベントを行ないながら、その結果を参考にし具体的な活動を模索して行くこととした。

本報告は、今年度行なった活動結果について報告することとし、今後の活動展開について若干の考察を行なう。

2．慈光会の社会貢献活動

【空き家について】

・空き家は、広島市安佐南区鶏頭地区にある２階建ての民家。現在は、「地域カフェいとうさん家」という名称で、地域に開放され地元住民が気軽に立ち寄る社交の場として活用されている。

・開設は慈光会職員の管理の下、月曜日、木曜日の週２回のみとなっている。

・空き家について、町内会と地元民生委員には情報提供している。

【活動意図】

・慈光会では、「中学生対象の塾」「ひきこもり家庭への支援」「障害児・不登校児・生徒の支援」などを考えたが、「地域貢献」との趣旨から、利用対象者が狭まるのもよくないとの思いを持っている。

・単発の活動だけではなく、継続した活動も視野に入っている。

3．本学主催による活動

3－1お月見会　（2015.9.27（日）開催）

(1) スケジュール

11：00 大学集合準備 打ち合わせ
13：00 現地集合
14：00 お月見会
16：00 片付け
16：30 解散

(2) 参加者

地域住民　18 名
スタッフ　人間栄養学科2年生２名
人間福祉学科1年生１名
教員２名
（人間福祉学科1、人間栄養学科1）

(3) 参加スタッフの感想

【良かった点】

・参加者の年齢が幅広く、子どもからお年寄りまで参加があった。

・空き家スペースにちょうど良いくらいの参加人数であった。

・和やかな雰囲気で参加者に楽しんでもらえた。

・学生も、子どもたちと触れ合えたことが楽しく、また企画を無事行えた達成感があり、次回も参加したいと意欲的であった。

【課題】

・参加者のほとんどが慈光会関係者であった。対象を広げる工夫が必要と感じられた。

・高齢者と子どものグループに分かれてしまい、もう少し交流できる工夫があれば良かった。

・準備物に、ガムテープやテープ　輪ゴム等があれば良かった。

・子ども用の飲み物を用意しておけば良かった（熱いお茶のみの準備であり、参加者がジュースを買ってきてくれた）。

3－2　元気に冬を過ごそうクッキング（2015.12.23（水・祝）開催）

(1) スケジュール

10：30 慈光会集合準備
11：00 調理（シチュー、クッキー）、折り紙、絵本、お絵かき
12：30 食事
14：00 片付け
14：30 解散

(2) 参加者

地域住民　16 名
スタッフ　人間栄養学科３年生２名、２年生２名
人間福祉学科1年生２名

教員２名
（人間福祉学科1、人間栄養学科1）

(3) 参加スタッフの感想

【良かった点】

・参加者の年齢が幅広く、子どもからお年寄りまで参加していた。
・前回の参加者からの口コミや、お誘いで参加したという方がおり、参加者から輪が広がっていった。
・前日が冬至で季節に合った料理が喜ばれた。
・子どもと大人の交流もみられた。シチューを煮込む間や、クッキーを焼く時間に和やかな雰囲気で参加者が楽しんでいた。
・学生も、子どもたちと触れ合えたことが楽しく、また企画を無事行えた達成感があり、次回も参加したいと意欲的であった。

【課題】

・参加の事前受付をしていないため、人数を予想することが難しく、調理の材料購入など、準備が難しい。
・今回の参加者は、学生教員も合わせて 24 名で、全員が座って食事をしようと思うと、スペースが狭かったので、調理を企画に入れるときは、参加人数を制限した方がよい。
・子どもの遊びを考える場合、事前に年齢と人数がわかった方が考えやすいように思う。
・参加者（60 ～ 70 代女性）から、「福祉学科の人と交流することは普段ないため、福祉のことで色々相談したいことがある。そういう話を聞いてくれる機会があったら嬉しい。」との要望があった。

4　考察

4-1 参加者について

参加者については、最初の活動では慈光会関係者がほとんどであったが、２回目からは口コミにより地域住民の参加が増えている。子どもも大人も楽しめるイベントを企画すれば、地域ニーズに沿うものとなり今後も活動の発展が期待される。その反面、使用会場（空き家）のキャパシティがあまり無いという問題があり、集客とのバランスが課題である。この点は、空き家の中で使用していないスペースを使えるかどうかなど慈光会との協議が必要である。

4-2 学生について

参加学生は、イベントを企画・運営しそれが成功するという体験を得ることができ、一定程度の社会経験、教育効果があると言えるようである。本活動を、本校学生の教育の場として発展させることも検討できるため、教育的効果という視点からも活動内容の工夫が必要である。

4-3 大学としての社会貢献活動として

一定程度の参加が得られているため、社会福祉法人としての地域貢献という一義的な趣旨には適うものとなっていると評価できる。ただし、慈光会は「児童福祉・教育」など、より具体的な福祉活動も視野に入れているため、その企画の検討が必要である。本学が、このイベントに協力する理由としても、具体的な福祉活動をテーマとすることが大学としての社会貢献として、より適切であろう。そのことは、参加学生への教育にも同じことが言えると思われる。この点で、検討に値するのが、2 回目のイベントで参加者から「人間福祉学科の人に相談をしてみたい」という要望である。今後の活動に、福祉相談というコーナーを試験的に設けてみて、その後の活動のヒントにしたいと考える。